

おじいちゃん

ぼくは病気で話ができない人の心を印刷できればいいと思います。

ぼくにはおじいちゃんがいました。重い病気にかかり、おじいちゃんが伝えたかったことが分からないままなくなってしまう。その時にぼくはおじいちゃんの心を写し出せる印刷があればいいなと思いました。

おじいちゃんは今年の一月末に高熱を出して入院し、集中治療室に入りました。その時

ぼくは六年生だったので、病室には入れませんでした。

病状が良くなり、四月に中学生になって初めてお見舞いに行きました。思ったより元気がうで、ぼくの話をとてよく聞いてくれました。したが、おじいちゃんの前には穴が開いていてチューブが通してあったため、話をする

ことができませんでした。日が経つに連れ良くなり、七月頃にはかなり元気になっていて、じゃんけんをしたり、

アルバムを見たり、たくさん学校やサッカーの話の聞いてくれました。おじいちゃんの元気が出るようにぼくが、

「手をつなごう。」
 と言うと、おじいちゃんはぼくの手を強く握り三十分以上もぼくの手を離しませんでした。じつとぼくを見ながら口を小さく開けたり閉じたりしていました。「何を言っているんだろう。」と不思議に思いましたが、全然分かりませんでした。

最後にお見舞いに行ったのは、おじいちゃんが七くなる四日前でした。その時は大きな文字でおじいちゃんを励ます手紙を書いて渡しました。ぼくが読んであげるとまたぼくの方を見て、口を小さく開けたり閉じたりしていました。「ありがとう。」と言っているのかな？、それとも、「頑張るよ。」と言ったのかな？、それとも「色々考えました何が伝えたいのか、結局分かりませんでした。帰る時は手を振って最後まで見送ってくださいまし

た。
その後、おじいちゃんの病状は悪化して、
その4日後にせくなつてしまいました。
今でもおじいちゃんはおぼくに何を伝えたか
つたのか分かりません。もし、おじいちゃん
が伝えたいことを理解することができる印刷
があつたら、おじいちゃんのしたかつたこと
や、願いを叶えてあげられたかもしれません。
病院へ行くと、病気で話しができない人を
たくさん目にします。病気の人には皆さびしそ
うで、それを見ている家族は皆つらそうです。
病気の人や家族が互いに幸せになれる、心が
分かり合える印刷があればいいと心から思い
ます。